

全日本大学バレーボール連盟危機管理内規

(目的)

第1条 全日本大学バレーボール連盟（以下「連盟」という。）が主催する競技会(地区学連含む)及び講習会・研修等における危機管理(自然災害、停電、感染症、及び大会中の事故)に対して適切に対応することを目的とする。

(安全対策)

第2条 連盟は危機管理者を決め、事業開始までに危機管理者は、対処法を事前に関係者に伝達し安全が確保されるよう、次の事項について確認すること。

2 危機管理者及び危機管理担当者は、避難経路、対応策等を必ずチーム役員、観客等に周知すること。特に観客には会場アナウンス等で安全対応を知らせる方法を確認すること。

1)自然災害等の対応

避難経路、避難場所の確認、誘導(動線)の方法を明確にして、選手、チーム役員、観客の安全を確保する。特に地震・津波については、公共施設の場合は、施設管理者の指示に従って誘導等の補助を行う。学校施設の場合は、土曜日、日曜日は担当者が手薄の場合があるので、政府及び自治体からのニュースを収集して適切に対応する。

① ビーチバレーボールの安全管理

イ) 落雷への対応

落雷警報発令時は、気象庁等の信頼できる情報を的確に入手し、選手、役員及び観客の安全を第一に捉え、落雷の危険があると判断した場合は、速やかに既設の屋根がある建物内や車両内に避難させること。

ロ) 熱中症縦策

選手、役員、観客に対して、水分補給に努め、日陰で風通しのよい場所をあらかじめ確保すること。選手に熱中症の疑いが見られた場合は、試合の続行について選手及びチーム役員に確認し、適切に対応する。

ロ) 光化学スモック等の対応

競技の開始の有無、中断や再開の判断は、気象情報を的確に入手し、地方自治体や消防署などの意見を参考に、適切に対応する。

2)停電対策

避難経路、避難場所の確認、誘導(動線)の方法を選手、チーム役員、観客に周知する方法を明確にしておくこと。

3)感染症・伝染病対策(インフルエンザ・ノロウイルス等)

罹患者の隔離や消毒など施設管理者と連絡し、選手、チーム役員、観客の安全を確保する。また、医療機関や保健所からの情報を収集して適切に対応する。

4)急病人・怪我人の手当て

施設管理者に連絡して、応急手当ができる部屋を確保する。また、事前に施設の救急体制及救急医療機関をチェックし、施設管理者に連絡し、救急車要請を行うこと。

5)AED と救急用担架の設置場所を事前に確認すること。

(競技場の安全管理)

第3条 コート面の安全管理

① 会場管理者と連絡を取り、事前に会場施設・設備の安全性をチェックする等の適切に対応する。

- ② 大会前の施設・設備等(用具)のチェックリスト確認表を別に定める表に従って確認すること。
- ③ ビーチバレーボールコート of 砂の温度を随時確認し、高温による火傷等を事前に防ぐため、コート面への放水などの対応を的確に行うこと。
- ④ 砂が高温になる恐れがある場合には火傷予防のために選手にサンドソックスを積極的に着用させる。
- ⑤ 傷病者が発生した時には、大会主催者に協力してチームトレーナーが応急手当に当たる。

(その他の対応)

第4条 保険の加入について、開催要項等に、傷害保険の加入及び担保内容を明記することを。

第5条 大会要項及びプログラムに避難経路略図等を掲載すること。

第6条 競技会及び講習会・研修会等の中断、中止、再開、延期等について、安全を最優先し、速やかに判断・伝達をすること。

第7条 全日本大学バレーボール連盟施設・用器具等のチェックリストを6ヶ月保存すること。

(改廃)

第8条 この内規の改廃は、この連盟の理事会の決議を経て行うものとする。

全日本大学バレーボール連盟施設・用具等のチェックリスト

全日本大学バレーボール連盟及び各地区学連主催の競技会、講習会、研修会の開催責任者は危機管理の観点から、観客、チーム、役員 of 安全を確保するために、施設、用具等のチェックリストに従って点検を行ってください。

チェック場所	確認	チェック内容
競技場	した・なし	避難所及び避難所までの動線(観客・チーム・役員等)及び観客・チーム・役員等の入退場口確認をしたか
	ある・ない	駐車場
	ある・ない	医務室・AED・担架
	過ぎる・ない	床面が滑り過ぎる
	過ぎる・ない	床面が滑べらな過ぎる

競技場、講習会・ 研修会コート (練習コート含む)	ある・ない	反り・浮き・目違いがあるか
	ある・ない	木栓の(だぼ)の浮き、ぬけがあるか
	ある・ない	床鳴りするところがあるか
	ある・ない	ゆるみ・たるみ・浮き・ずれがあるか
	ある・ない	器具等のぐらつきがあるか
	ある・ない	応急手当用医療物品
ビーチバレーボー ルコート	ある・ない	ガラス片、空き缶、小石、貝殻等があるか
	ある・ない	飲料水・氷嚢(ビニール袋)・氷
施設・用具	した・なし	コート周りのフェンスの安全の確認をしたか
	ある・ない	審判台・ボール・ネット等に不具合があるか
	ある・ない	選手控え室
	ある・ない	役員控え室
	ある・ない	トイレ
救急指定病院	した・なし	救急指定病院の確認したか
開催地で必要な チェック場所	した・なし	津波の危険度の高い施設では避難方法の確認したか
	ある・ない	応急手当に必要な材料

※その他のチェックコメント

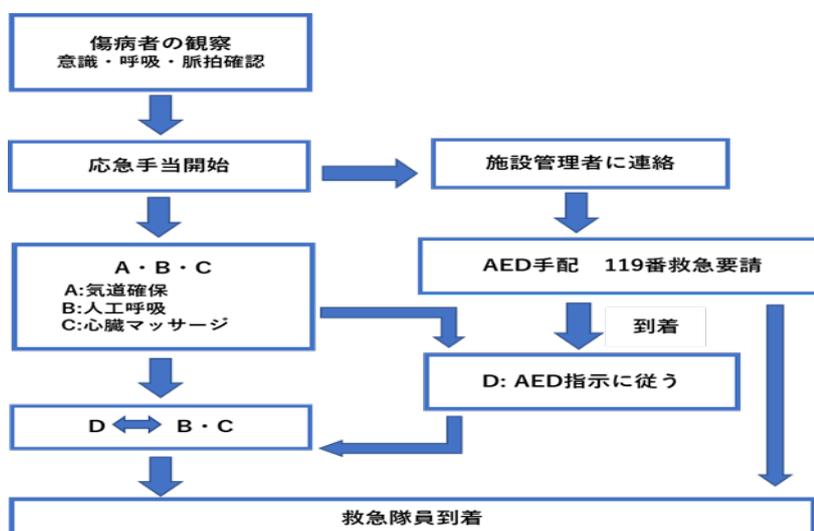
チェック年月日 20 年 月 日

大会競技・講習会・研修会名

大会競技・講習会・研修会場所

チェック者名 印

1. 競技会場における主な応急手当 応急手当及び救急要請の手順



※心臓マ
口呼吸

1人なら心臓マッサージだけでよい。
救急隊員・医師が到着まで手当を行う。

マッサージ 30 回に人
2 回の割合で続ける。

2.応急処置のために競技会場内に用意すべきもの

1)大会主催者が用意すべきもの

温湿度計、携帯型担架()、AED,血圧計、体温計、氷水、消毒セット(創傷用)滅菌ガーゼ、脱脂綿、絆創膏、包帯類、バスタオル、創傷被覆材、ハサミ、爪切り、ペンライト、ピンセット、コールドスプレー(冷却剤)、液体石鹼、角巾、バスタオル、捻挫・骨折用シーネ、

※出来れば会場にハンドマイクを置くことが望ましい。

2)チームが用意すべきもの

① チームとして携帯するべきもの

氷水、消毒セット(創傷用)滅菌ガーゼ、脱脂綿、バンドエイド・弾性包帯、体温計、ペーパータオル、テーピングテープ各種(伸縮、非伸縮、アンダーラップ)、ビニール袋、サポーター、湿布薬

② できれば揃えておきたいもの

三角巾、創傷被覆材、ハサミ、爪切り、ペンライト、ピンセット、コールドスプレー、消炎鎮痛剤、胃腸薬、整腸剤、目薬、虫刺され薬、日焼け止め、(薬剤はドーピング禁止の含まれないもの)

※チーム内に少なくとも1名は救命救急講習会等の受講者(トレーナー)が帯同することが望ましい。

